

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|--|--------------------------|-------------------|--------------------|
| 認知症の理解Ⅱ Understanding Dementia Ⅱ | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 演習 | 選択 | (介護福祉士養成課程 必修) | 介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 認知症の理解Ⅰ | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 和田晴美 | 福祉棟2F | 月・火・水・木の9時から16時(授業時間を除く) | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 認知症の理解Ⅱでは、認知症の理解Ⅰで学んだ医学的知識をもとに、非薬物療法のグループ学習を行う。調査した内容を討議することで十分に理解した後、利用者を設定したロールプレイによる発表を行い、クラス全体の共通理解を図っていく。その後、非薬物療法の一つである「芸術療法」を学生自身が体感することで、療法の効果と必要性を理解する。認知症がある人の心理・行動の特徴を理解し、本人および家族への支援を考える。また、認知症がある人に対する様々な人権侵害を理解し、尊厳を重視した介護を行うための基礎的能力を養う。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①認知症がある人にとっての望ましい環境を考えることができるようにする。 ②認知症の非薬物療法の種類を列挙し、具体的な方法が説明できるようにする。 ③芸術療法(臨床美術)が、認知症高齢者のQOL向上に効果があることを体感できるようにする。 ④認知症がある人を介護する家族のストレスの原因や対処方法について説明できるようにする。 ⑤認知症がある人への人権侵害の現状を理解し、対策に対する自分の考えを述べることができるようにする。 ⑥認知症の危険因子を挙げ、予防方法を述べることができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 認知症の理解Ⅱでは、認知症の理解Ⅰで学んだ基礎的知識をもとに、様々な行動に対応し、尊厳を重視した介護を行うための基礎的能力を養う。講義、演習、グループ学習やディスカッションを通して認知症介護への理解を深める。また、認知症の理解Ⅰに引き続き認知症に関連するトピックスを新聞や雑誌などから選び、その記事の概要と感想を発表することを課題とする。 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①認知症がある人への効果的な非薬物療法の種類と概要を説明することができる。 ②認知症がある人と家族に対する人権侵害と、尊厳を支える地域のサポート体制について説明することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス(シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法等の説明) 認知症の理解Ⅰの振り返り | | | 【講義】 |
| 第2回目 | 認知症と環境の力① 在宅環境 グループホーム、宅老所について 視聴覚教材「宅老所井戸端げんき」の視聴 | | 【グループディスカッション・発表】 | |
| 第3回目 | 認知症と環境の力② 施設環境 | | | 【講義】 |
| 第4回目 | 認知症ケアの原理・原則 認知症がある人へのかかわりの基本 | | | 【講義】 |
| 第5回目 | 認知症の非薬物療法① | | | 【グループ学習】 |
| 第6回目 | 認知症の非薬物療法② | | | 【グループ学習】 |

| | | |
|--|--|---|
| 第7回目 | 認知症の非薬物療法③ ロールプレイの練習 | 【グループ学習】 ＜資料提出＞ |
| 第8回目 | 認知症の非薬物療法④ | 【ロールプレイによる発表と補足】 |
| 第9回目 | 認知症の非薬物療法⑤ | 【ロールプレイによる発表と補足】 |
| 第10回目 | 芸術療法の実際 「臨床美術」 (臨床美術協会会員 アトリエこぼこ 小橋 操先生) | 【演習】 ＜体験後のレポート課題 提出は第11回＞ |
| 第11回目 | 認知症の人と家族への支援① 家族のストレス、家族へのレスパイトケア | 【講義】 |
| 第12回目 | 認知症の人と家族への支援② 視聴覚教材「ハルさんの物語」の視聴 | 【グループディスカッション・発表】 |
| 第13回目 | 認知症の人と家族への支援③ 認知症をよく理解するための「九大法則と一原則」 | 【講義】 |
| 第14回目 | 認知症がある人に対する人権侵害の問題と対応① (試験) | 【講義】 |
| 第15回目 | 認知症がある人に対する人権侵害の問題と対応② 認知症の予防 認知症予防のメカニズム (試験の解説) | 【講義】 |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 10% | 以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。グループ学習時は協力して課題に取り組み、意見交換により課題を深く追求すること。 |
| レポート | 10% | 芸術療法の体験後のレポートで評価する。体験の感想、学び、今後の展望が記載されていること。 |
| 調査報告書 | 10% | 課題①で評価する。評価基準Sは、課題を十分に理解しテーマを掘り下げて調査しており、分かりやすい資料を作成し期限厳守して提出すること。使用した文献や資料を明らかにしていること。 |
| 小テスト | | |
| 試験 | 50% | 国家試験に準じた問題、文章を読み正誤を判断する問題、記述問題等で知識の確認をする。 |
| 発表内容 (態度含む) | 20% | ①非薬物療法グループ学習②認知症に関するトピックスで評価をする。創意にあふれ、誰にも分かりやすく工夫した発表であり、他者を惹きつけるものであること。グループで協力しロールプレイを行っていること。 |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解 中央法規出版 (認知症の理解 I と共用) | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 授業・グループ学習・ディスカッションには積極的に参加し、学びを共有してほしい。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い、届出等は速やかに提出すること。 | | |